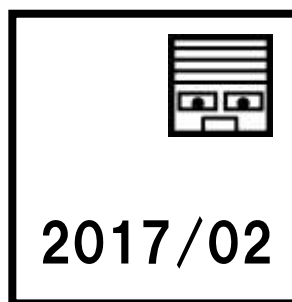




神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。



最近、ペットフード関連の社史が数冊、目に留まりました。ペットフードが普及しはじめた頃から半世紀という背景もあるようです。今回はペットフードに関する社史を3冊紹介します。

国産初のドッグフードは日本ペットフード(当時は協同飼料)が1960年に発売した「愛犬の栄養食 Vita・One」です。その頃の日本では輸入品はあったものの犬専用のフードにはなじみが薄く、犬には残飯を与えるのが主流でした。しかし、必ずペットの飼育が普及してアメリカのように専用のフードが求められるはず

だと、創業者の大津利(おおつ・とし)は考えます。

『日本ペットフード50年史』(2014年刊)によると、発売当初の製品は粉末状で評判は今一つ。一旦は製造中止になりました。それでも研究を続けていき「事務所にパン焼き器を持ち込んで調理したこともあれば、研究担当者や販売担当者が街に出て菓子店やビスケットの製造業者を訪ねるなどして」製品開発を進めていきました。1961年には、ペレット状のフードを製造し、ご飯に混ぜて栄養を与えるという位置づけで販売、売り上げを伸ばしていきます。また、ペレットは水に浮くこと

をヒントに、錦鯉用のフードを製造し、ヒット商品となりました。

社史には、発売以来、パッケージに使われているビタワンのキャラクターの紹介や、「こんな会社になりたい」という全社員150名の声なども掲載されています。

●
日本農産工業(のちグループ企業としてペットラインを設立)でも、ペットフードの開発が1964年に始まりました。

当時の日本では、まだ「犬には残飯」の考え方が根強く、同社の企画部は東京・横浜の高級住宅街をリサーチすることになりました。『ペットライン50年史 人とペットの半世紀物語』(2016年刊)には、訪問した愛犬家のお宅が有名人であったなどのエピソードが記されています。

ペットフードの普及まで

(裏面につづく)

(表面からづづく)

製造機械も自社で手掛けることとし、国産第一号のペットフード製品造粒装置を提携会社と共同製作します。こうして1966年に、粉末スープが付けられた「ドッグピット」の販売が始まります。

1972年には国産第一号のドライタイプのキャットフード「キャネットチップ」を販売します。その開発に際して、プロジェクトチームに届いた「北陸の若狭では、漁師が魚寄せのためにある魚介類の内臓を使っている」という情報をもとにサンプルを取り寄せました。強烈な臭いには社内からも苦情が出るほどだったようですが、臭いが気にならないう程度に微量を配合し「嗜好性を高めるかくし味の決定打となった」と開発の様子が記されています。

社史には、副題にあるように、人とペットとの関わりを交えつつ、商品の歴史などが読みやすく書かれています。

戦後、大阪市の金物問屋に勤めていた林明雄は、出張先の沖縄の米軍基地の売店で、日本では見たこともないペット用品が陳列されているのを見て、カルチャーショックを受

けたそうです。

『ドギーマンハヤシ株式会社40年史』(2004年刊)によると、1963年、同社の前身の林製作所を創業し、ペットビジネスを始めていきました。当初は犬用の首輪や鎖などを作って、おもに輸出をしていました。

1977年には、牛皮を用いた犬用チューインガムを輸入して販売を試みました。当時、「犬のガム」といっても馴染みはなく、笑われてしまうくらいでしたが、市場の反応はよく、供給が追い付かないほどの大ヒット商品となりました。

さて、ある時、林社長の飼っていた愛犬のサリリーが日に日に弱っていききました。人間だって好きなものを食べれば元気が出る、犬はもともと肉食だから肉を食べれば元気がでるだろうと、林社長は夕飯用の肉を冷蔵庫から出してサリリーに与えたところ、元気を取り戻したそうです。このことがヒントとなつて、1981年、世界初のペット用のジャーキー「ヘルシージャーキー」が誕生し、市場に確固たる地位を築いていきました。社史では、その経緯を、写真やイラストを用いたマンガでも説明しています。

(科学情報課・高田)

文具・事務用品を扱う大澤ローヤルが創業100年を機に刊行した『文具事務用品 文化とともに』(1978年刊)を最近寄贈していただきました。この本には、さまざまな文具(たとえば、鉛筆削り器、ファイル・バインダー、ナンバーリング…)の歴史、種類、選びかた、製造工程などが読みやすくまとめられています。「あとがき」で書かれているように、まさに「紙上工場見学」といった感じです。「当社のなりたち」は巻末の4ページのみなのですが、自社の歴史をメインにした内容ではないのですが、社史室にある特徴的な一冊として紹介しました。文具に関する調べものにも役立ちそうです。

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4

電話:044-233-4537 FAX:044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>